

第13回科学の甲子園全国大会開催概要

1. 目的

科学の甲子園全国大会(以下、「全国大会」という。)は、国立、公立、私立の高等学校、中等教育学校後期課程及び高等専門学校(以下、「高等学校等」という。)の生徒等を対象とした科学技術・理科・数学等における複数分野の競技を開催することにより、全国の科学好きな生徒等が集い、競い合い、活躍できる場を構築し、提供することで、科学好きの裾野を広げるとともに、トップ層を伸ばすことを目的とする。

2. 全国大会の実施・協力体制

- ① 主催 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
- ② 共催 茨城県、茨城県教育委員会、つくば市、
高等学校文化連盟全国自然科学専門部(予定)
- ③ 後援 文部科学省(予定)、公益社団法人日本理科教育振興協会
- ④ 都道府県教育委員会及び協働パートナーの協力を得て開催する。

3. 開催日程

- ① 令和6年3月15日(金)～18日(月)の日程で全国大会を開催する。
- ② 大会の日程は以下のとおり(行事は変更する場合がある)。
3月15日(金) 開会式、オリエンテーション、筆記競技
3月16日(土) 実技競技
3月17日(日) 特別シンポジウム、表彰式、協働パートナー等によるブース展示、
フェアウェルパーティー
3月18日(月) エクスカーション、解散

4. 場所

つくば国際会議場(茨城県つくば市竹園2丁目20番3号)及び
つくばカピオ(茨城県つくば市竹園1丁目10番地1)

5. 出場チーム

- ① 全国大会出場チームは、学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)に定める高等学校、中等教育学校後期課程、高等専門学校、特別支援学校高等部、専修学校高等課程(以下、高等学校等)に所属する生徒で構成する。なお、構成員は高等学校等での通算在籍が過去の在籍も含め2年未満の生徒とする。
- ② 全国大会出場チームの員数は6人以上8人以内とする。
- ③ 全国大会出場チームは1校単位で編成する。
- ④ 全国大会出場チームは、1都道府県1チームとし、全ての都道府県から出場するものとする。

- ⑤ 各都道府県教育委員会は全国大会出場チームを選考する。その実施方法は各都道府県教育委員会の定めるところによる。

6. 競技の種類

大会競技は筆記競技と実技競技からなる。

① 筆記競技

筆記競技は、理科、数学、情報の中から、習得した知識をもとにその活用について問う問題で競うものとする。なお、教科・科目の枠を超えた融合的な問題も出題される。

② 実技競技

実技競技は理科、数学、情報に関わる実験、実習、考察等、及び科学技術を総合的に活用して、ものづくりの能力、コミュニケーション能力等により課題を解決する力を競うものとする。

7. 競技の形式

筆記競技、実技競技ともに、各出場チームが競技ごとに定められた複数人からなる競技チームを構成し、当該競技チームが問題等を分担、相談するなど協働して成果を創出し、その成果を競い合う形式のものとする。

競技数、競技者数、配点比率及び競技時間は以下のとおり。

種目	競技数	競技者数	配点比率	競技時間
①筆記競技	1競技	6名／1競技	筆記競技と実技競技の配点比率は1:2とする。	120分程度
②実技競技	3競技	3～4名／1競技		競技毎に決定

8. 表彰等

- ① 主催者が定めた審査委員会が、各競技の成績点数の合計によって優勝チームを決定する。
- ② 優勝チームには、文部科学大臣賞を授与するとともに、米国で開催されるサイエンスオリンピックへの派遣を行う。
- ③ 総合成績第2位のチームには、科学技術振興機構理事長賞を授与する。
- ④ 大会成績により、その他の表彰を授与する。
- ⑤ 大会成績上位の出場チーム名は公表する。出場チームの成績は当該出場チーム及び当該教育委員会に提供する。

9. 費用負担

- ① 出場チームの選手及び引率教員1名の全国大会会場までの往復交通費と宿泊費等は、原則として主催者が負担する。
- ② 都道府県大会、及び、選考された代表チームの研修にかかる費用のうち、認められるものについてはJSTがその費用を支援する。但し、都道府県にも応分の負担を求めるもの

とする。

10. 都道府県への支援

9.②の支援のほか、JSTは都道府県が代表チームを選考、研修できるよう、その他の支援を行う。

11. その他

今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、本大会の開催方法、開催内容を変更する可能性がある。

以上